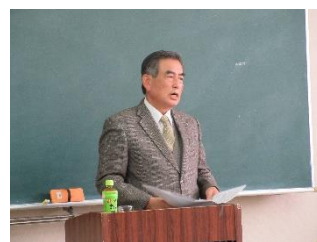


小野田赤十字病院長による 地域公民館での講演録

(第1回 年内連載予定)



平成30年2月9日(金) 18:30~20:00 本山公民館 (人権教育講座)

演題：「苦しんでいる人を救いたい」☆人道の精神☆

清水 良一

講演要旨：平成30年2月5日~8日にかけての北陸地方の豪雪で、福井市では積雪が147cmに達し、国道8号線では1500台もの車が立ち往生し、多くの人が24時間以上を車の中で過ごさざるを得ない状況となった。福井赤十字病院の野口正人院長も2月6日の夜の帰宅時に、自宅まであと30mの地点で立ち往生に巻き込まれた。御自身の車は近隣の住人の協力により何とか道路沿いのユニクロの駐車場に移動させることができた。

2月6日の午前中に、福井赤十字病院では前もって豪雪に対する災害対策本部を立ち上げていた。野口院長は直ちに福井県に現状を報告するとともに、福井県立病院および福井大学病院にも救護班を要請し、福井赤十字病院の救護班と共に、同時に3班が各々交替で引き継いでいく形で、車に閉じ込められ体調を崩された人のために夜を徹して出動対応にあたった。県を動かすことで、迅速な自衛隊の出動に繋がり、結果、平成30年2月9日未明に国道8号線の除雪が完了し、立ち往生が始まってから3日後に全線開通となった。本山公民館における標題での講演はまさに福井豪雪が一段落した2月9日、その日の午前10時から開催された。

日本赤十字社の使命として『わたしたちは、苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守ります』という人道的任務を掲げている。災害対策基本法にも現在 83 ある指定公共機関の内、日本銀行、日本赤十字社、日本放送協会（NHK）の 3 機関のみが条文化されており（第一章、第二条、第五項）、日本赤十字社では医師 1 人看護師 3 人を含む 6 人一組の救護班を全国の赤十字病院内に総計 501 班を常設し、人道的任務に備えている。ちなみに、小野田赤十字病院は救護班として 2 班を常設している。

本山公民館での講演では、タイムリーに発生した福井豪雪を題材にして、災害時の医療に関する人道支援の現状を詳しく解説した。日本における災害医療チームには大きく分けて 3 機関があり、一つは行政の要請で出動する **DMAT**（災害派遣医療チーム：概ね災害発生から概ね 48 時間までの活動）で、二つ目は日本医師会の要請で出動する **JMAT**（日本医師会災害医療チーム：災害発生後 3 日目から概ね 1 週間までの活動）である。三つ目が先に述べた **日本赤十字社の救護班**（DMAT および JMAT の両方の機能を備え、災害発生直後から被災地域の医療体制が自立するまでの活動）であり、本山公民館での当日の講演において、これら 3 つの機関は究極の人道支援を担う組織であることを理解していただけた。

講演の中では、なぜ最初の 72 時間が人命救助にとってデッドラインになるのかを、生命維持に不可欠のヒトのエネルギー代謝の仕組みについて、配布資料を基に分かりやすく丁寧に解説した。今後予定されている公民館主催の健康に関する講座での理解を深めるのに必ず役立つはずである。（なお、今後の健康講座でも繰り返し解説するので、乞安心！）

～筆者プロフィール～



小野田赤十字病院 院長 清水 良一

昭和 5 5 年 3 月山口大学医学部医学科卒業
同年、山口大学第二外科（現 消化器・腫瘍外科）に入局
大学病院に通算 1 4 年勤務、病棟医長・講師を経て
平成 8 年 4 月～平成 2 8 年 3 月まで小郡第一総合病院 外科部長
平成 2 8 年 4 月～平成 2 9 年 3 月まで徳山中央病院 外科診療部長
平成 2 9 年 4 月～ 現 職（山口大学医学部臨床教授）

資格等

日本外科学会
日本消化器外科学会
日本がん治療認定医機構
旧厚生省認定
日本乳がん検診精度管理中央機構
日本医師会
身体障害者福祉法
山口県知事指定

認定医・専門医・指導医
専門医・指導医
認定医
外国医師臨床修練指導医
マンモグラフィ読影認定医
認定産業医
指定医
難病指定医